

# 活動レポート

## 北方海域技術研究委員会

文責：北方海域技術研究委員会幹事 橋本孝治

### 講演会「マリンサイエンスが拓く未来」の報告

#### 1. はじめに

北方海域技術研究委員会では、2014年(平成26年)10月16日に平成26年度の定例会として、講演会「マリンサイエンスが拓く未来」を函館市の函館市国際水産・海洋総合研究センター(大会議室)にて、道南技術士委員会との共催ならびに一般財団法人函館国際水産・海洋都市推進機構、北海道開発局函館開発建設部及び地方独立行政法人北海道立総合研究機構の後援を得て開催しました。

講演会は、一般財団法人函館国際水産・海洋都市推進機構長 伏谷伸宏氏の開会挨拶を皮切りに、ご講演3件及びパネルディスカッションの内容にて開催し、81名の参加を得、当研究委員会の河合幹事の司会により進められました。また、講演会に先立ち函館市国際水産・海洋総合研究センターの現地視察を行ったほか、講演会終了後にはホテルリソル函館にて意見交換会を開催しました。

以下にその内容をご報告します。

#### 2. 現地視察

函館市国際水産・海洋総合研究センターは、産学官が連携してマリンサイエンス分野で世界をリードする研究成果や革新技术を生み出し、産業経済の活性化に結びつけるのがねらいで、入居型の貸研究施設として、学術試験研究機関や民間企業が入居できる研究室を備えているほか、函館港外から直接採取した海水を水槽実験に使用することができるなど、水産・海洋分野の研究開発や、産学官連携の拠点としての機能を有しています。

現地視察では、当センターの産学官連携コーディネーター 五十嵐氏のご案内を頂きながら、これら施設について視察しました。



写真-1 現地視察の様子



写真-2 講演会の様子

#### 3. 講演 1

公立はこだて未来大学 システム情報科学部 教授ならびにマリンIT・ラボ 所長、和田雅昭氏を講師としてお招きし、「IT 漁業の夜明け」と題しまして、ご講演頂きました。

まず氏から、洋上におけるインターネット環境の飛躍的な向上によって、漁業においてもIT技術を積極的に取り込んでいく時代が来たとして、南茅部等で実施されている魚群探知機を用いた定置網漁業のIT化の話題をご紹介いただいた。そして、IT技

術が果たす役割として、情報(魚群)の可視化、適時適量による漁業の効率化、資源管理等、幅広い分野への活用が期待できるとご説明頂いた。最後に今後の課題として、リアルタイム化、二次利用化、ビッグデータの取り扱い、情報管理等についてお話し頂いた。

#### 4. 講演 2

北海道立総合研究機構 水産研究本部 函館水産試験場 調査研究部管理増殖グループ 研究職員、佐藤政俊氏を講師としてお招きし、「噴火湾の海洋環境の特徴について」と題しまして、ご講演頂きました。

ご講演は、「何故、噴火湾では多種多様な生息環境が形成されているのか」の問い掛けから始まった。そして、この答えとして、季節毎に異なる性質の二つの海流(親潮と津軽暖流)が流入することで水温変化に富んだ環境が形成されることについてご説明された。さらに水温変化以外にも、親潮水は栄養が豊富であること、また初秋に入ってくる津軽暖流水は、夏から秋にかけて深いところに形成される貧酸素水を湾外に押し出していること等、噴火湾の海洋環境メカニズムについてご講演頂いた。

#### 5. 講演 3

道南技術士委員会 代表 布村重樹氏を講師としてお招きし、「産学官連携研究成果の産業化」と題しまして、主に「がごめ昆布産業クラスター化の取り組み」について、ご講演頂きました。

まず氏から、函館における都市エリア事業研究プロジェクトや函館マリンバイオクラスター等、函館地域における産学官連携の現状についてご紹介いただいた。そして、駆除対象であった「がごめ昆布」の商品化への事例についてお話し頂き、アンテナショップを核とした活動展開が成功につながったとご説明された。最後に産学官連携のポイントと産業化の課題についてお話し頂いた。

#### 6. パネルディスカッション

ご講演に引き続き、和田雅昭氏、佐藤政俊氏、布



写真-3 参加会員からの熱心な質疑



写真-4 意見交換会の様子

村重樹氏の3名の方にはパネラーとして登壇頂き、北方海域技術研究委員会 橋本孝治氏がコーディネーターを務め開催されました。

討議は、「豊かな浜の創生や活力に満ちた地域づくり等にマリンサイエンスが如何に貢献できるか」を主題として、海洋の生産性、漁業の最適化、水産物の製品化・ブランド化の切り口で進められた。そして、海洋に関する膨大なデータを効率よく、かつ、安価に取得するための方策として、漁船一隻一隻が観測船となり簡易的な計測機器による海洋モニタリングを実施する等、様々な意見が持ち上がった。

#### 7. おわりに

当研究委員会にとっても重要なテーマであるマリンサイエンスや地域振興の方策に関するご講演頂き、今後の展望について考える機会が持てた。

最後にお忙しい中、快くご講演をお引き受け頂いた各講師及び関係各位に心からお礼申し上げます。